

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200825		
法人名	株式会社 富士見プロジェクト		
事業所名	グループホーム さくら2号館 (1階ユニット)		
所在地	静岡市清水区蒲原中302-1		
自己評価作成日	平成31年1月13日	評価結果市町村受理日	平成31年3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kami=true&JigyosyoCd=2294200825-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成31年1月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成22年8月2日に1階ユニットオープン。平成23年4月16日に2階ユニットオープンの施設です。JR蒲原駅から約徒歩5分、国道一号線富士由井バイパス蒲原西出口からもほど近い場所にあります。1年を通し日中は日当たり良好な駐車場や玄関にて日向ぼっこをしたり、イベントを開催しています。地区のお祭り際には当ホームの駐車場にて踊りを披露して下さったり、定期的に地区のボランティア様、不定期ですが散歩中の園児たちが来所して下さいと地域の方々に支えられています。また、シニアサポーターの様々なグループの皆様にご披露やお手伝いをいただいています。医療面でも提携病院との連携体制や受診支援等に力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から8年を経て、地域密着型に求められる要素の一つひとつをクリアしています。今日細かな部分への補足、小さな不備の改善にあたる段階を迎え、昨年度の外部評価の目標設定では『ボランティアの充実』に係る事柄に着目、連絡先一覧表や『ボランティア活動時のお願い』といった書面を作成するに至っています。シニアサポーターの登録事業所となって以来口コミで広がり、訪問ボランティアも増え、お茶出しなどのイベント補助、じょうだん会(楽器の演奏、歌)、なかよし会(歌、踊り、手品)、オカリナ、ギター、それぞれ1~2ヶ月に一度は来所下さっています。事業所でも活動の様子を玄関に掲示して功労を称え、感謝を伝えています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

1階ユニット

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員から募集し、タイムカードの上に展示し毎日職員が見る事により、共有を図っています。職員個々の意識の差はありますが、職員同士の声掛けにより意識が高まっています。	職員で候補を出し合い選んだ理念は、掲示のほかスタッフ会議で読み合わせもおこない、確認しています。法人内の異動では「此处は利用者職員が近いね」と評されることが間々あり、また利用者も自ら訴える人が多いことから、管理者も理念の浸透を実感しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入し地域の祭り、清掃活動へ参加しています。日常的な挨拶、協力出来る事があれば積極的に協力しています。	管理者交代の挨拶は速やかにおこない、例年通り海岸清掃や防災訓練にも参加を果たしています。また事業所の防災訓練には蒲原西こども園児が10名程駆けつけてくれ、消防署の指導の下職員と一緒に消火器を取り扱い、世代を超えて共に学んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域の行事に参加した際には、地域の方々に認知症に関する相談等随時受け付けている旨を発信しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では地域の方々やご家族の意見を聞いてサービス向上の参考にしています。評価への取り組み状況等についてスタッフ会議で取り上げ話し合っています。運営推進会議は2ヶ月に1回奇数月に行っています。	事業所の状況報告を中心に進めてはいるものの、隔月開催を重ねるなかで防災への関心が高いメンバーから「区の防災委員も事業所の役に立てるかもしれない」「避難所防災ゲームを開催するので職員にも参加してほしい」と、熱を帯びた協議であることが議事録より確認できます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書類提出の際の電話や郵送でのやり取りが多いです。それ以外での日常的な連携は不足していますが、地域包括センターを招き運営推進会議を実施しています。	毎年集団指導にも出席していますが、8月にあった実地指導では加算の記録保存について具体的な指導を市担当者から得ることができています。毎月介護相談員の来訪もあり、「皆さん、すごい元気ですね」といった感想や意見を残してくださっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言をしていますが、職員が2人介助等によりフロアの見守りが出来ない時、明らかに離脱等危険があると判断した時のみ、短時間施錠することがあります。	本年の法改正については指針整備が終了段階ですが、現在身体拘束が必要な利用者はいませんが、スピーチロックについては「ちょっと待って」が出てしまったり、声の大きい職員もいます。職員同士で注意し合える風土に助けられ、日々是正しています。	本年の法改正に係る取り組みについて急ぎ進め、年度内に完了することを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	利用者の状態観察、異常の発見時の報告・記録を徹底し事業所内での虐待が見過ごされないように、職員同士が声を掛け合い注意を払っています。		

自己評価および外部評価結果

1階ユニット

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	系列病院の看護師のアドバイスを受けています。また、職員個別に外部研修に参加するなど知識、技術の向上に心掛けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	口頭及び文章で説明は十分に行い理解・納得していただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に対してはケアプラン説明時や電話連絡時や面会時等に意見・要望を伺っています。利用者に関しては管理者からの直接の聞き取りや、職員が要望を聞いた際の報告を通じ意見・要望を伺い必要に応じ運営に反映させています。	事業所からは『さくら2号館だより』を発行し、家族の面会も頻回で、外泊についての相談や本人の好きなものの差し入れがあり、円滑な関係であることが視えます。新管理者も交代時に似顔絵入りの便りで報せ、家族から「管理者になったんだね」と声をかけてもらえています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や個別面談、アンケートを通じて職員の提案や意見を聞いて、必要に応じて反映させています。	毎月のスタッフ会議の前には書面で気づきを提出するという仕組みがありますが、大半の職員が「口頭で伝えることができる」として活用されてはいません。園芸建物周辺美化係をはじめとする係の制度を通じて職員の主体性を養うことが叶っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、面談を行い人事考課制度を通じて、職員個々の実績や能力に応じた評価をして向上心を持てるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加を支持し、職員個々の実績や能力の向上を進めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への参加支援や関連施設でのイベント参加を通じ、同業者との交流を図っています。		

自己評価および外部評価結果

1階ユニット

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化に対する不安に配慮しながら、傾聴し少しでも早く安心して生活できるように全職員で意識して努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回相談時や見学時に良く話を聞いて、関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回相談時やアセスメント時に本人と家族の意向をよく聞き、当ホームの方針を説明し、他施設・他サービスも考慮して状況に応じた対応をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員によって意識の差はありますが、食事や家事を共に行い、共生を意識しながら関係構築をしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所として出来る事出来ないこと、家族でなければ出来ないこと等を入所前に説明し、家族と職員が共に本人を支えていけるようにしています。家族が気軽に面会に来れる雰囲気作りやイベントへの家族参加等で本人と家族の絆を大切にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人が来所しやすい様な雰囲気作りや散歩時、イベント時の地域の顔見知りとの交流を通じて、馴染みの関係を継続出来る様に努めています。	地域からの入居者が多く、祭りや盆踊り、防災訓練で昔馴染みと再会できており、面会でも「本人が喜んでいたので是非またいらしてください」と声をかけ、次回の来所につなげています。また清掃業だった人は専用の道具を揃えて、職員の清掃をフォローくださっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り関わりを持ちながら、孤立する事なく円滑に人間関係が築けるように支援しています。		

自己評価および外部評価結果

1階ユニット

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された家族がなかなかGHIに来られませんが、地域の利用者が多いので街中で家族とお会いすることもあります。その際には退所された利用者の様子などを伺っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント時意向や思いの把握に努めていますが、困難なケースが多いです。家族の意向を考慮しながら本人本位になるように担当職員を中心に全職員で会議等で計画作成の為に話し合いをしています。	利用者の隣でお茶を飲んだり、自室で過ごすのが好きな人には訪室して「寒くないですか」と声をかけるなど「話しやすい場面を作ってほしい」と職員には伝えていきます。実際、「この年だけど皆が声をかけてくれる」と、利用者本人が調査者に話してくださいました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメント時に極力把握出来る様に努めています。他にもご家族や友人が面会に来られた時、生活歴を聞いています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常的な記録・申し送りの他に状態変化の見られる方については、随時報告・連絡・相談を心掛けています。申し送りノートやスタッフ会議での職員間での情報の共有に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングはご本人・御家族の声を頂き、どこで暮らしたいか又サービス内容で何が未達成なのか明確にしています。担当スタッフの介護計画への関わりを持ち長期目標・短期目標の達成を意識させています。	ユニット毎に計画作成担当者と介護支援専門員が配されていますが、法人内の他事業所との兼務者です。また遠方から通う職員の負担に配慮してカンファレンスは更新対象者のみとしています。今年度1月より生活機能向上プランを策定、理学療法士と連携を図っていく予定です。	段取りとしては過不足ないものの、機能向上プランの件以外は効率化に向かう様相があるため、管理者による随時のチェックを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護サービス実施記録を作成し日々、適切にサービスが実施されているかスタッフが項目毎に押印し月末に何が未達成なのかを明確にし短期目標の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り本人や家族のニーズに対応し、柔軟な支援に取り組んでいます。		

自己評価および外部評価結果

1階ユニット

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握において不十分な事も多いので、今後地域資源の情報収集・活用していきたいと思います。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望に沿える様に支援しています。提携病院での受診を希望される場合は、付き添い介助をしています。その他の病院を希望される車椅子の方は、可能な限り送迎をしています。	協力医への変更は6名、他は在宅の頃からのかかりつけ医を家族の通院介助で継続しています。家族には必要事項をメモに書いて手渡し、変わったことがなければ口頭で伝えています。受診後は薬の変更等あれば処方箋を持って来てもらい、所内で情報共有しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師による健康管理があります。他にも緊急時の対応指示を仰いだり、報告・連絡・相談を行ない看護師と連携しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も連絡をとり状態把握に努め、入退院時の連携がスムーズに行えるように、情報交換や相談等病院関係者との関係づくりを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合や終末期の対応について話し、事業所として出来る事・出来ない事を説明し同意を得ています。また、重度化となる前の段階で家族と話し合う機会をもち、医療機関を紹介するまでの支援をしています。	「看取りはできませんが系列病院と提携している」と契約時に伝え、重度化した場合の対応に係る指針などの書面を以て説明した上で同意を得ています。実際重度化に伴う移設もスムーズです。また静岡市消防「救急搬送時の情報提供シート」にも記入をお願いしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	H30、5月に消防署員による指導を依頼し、近所の園児達と共に消火器の使用や車椅子での避難の仕方の指導などを行いました。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の事業所での防災訓練の他に、地区での防災訓練に参加しています。夜間の訓練は現在行えていません。	昨年の大停電では食事に最も難儀しており、経験を参考にしつつ備蓄の見直しを図るとともに、防災グッズを切り替え中です。地域防災訓練にも参加し、自治会からも事業所訓練への協力体制もあり、保育園児を招いての事業所訓練も回を重ね、定着しています。	未だ実施できていない、風水害、夜間想定訓練を次回の訓練で取組むことを期待します。

自己評価および外部評価結果

1階ユニット

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、プライバシーに配慮した声掛けや対応を指導していますが、言葉使いや態度が気になる職員もいます。	隣に座るときには「こちらおじゃましてもよろしいですか」と声かけしたり、耳元で「〇〇さんのパッド、部屋に置いておきますね」と小声で話すといった配慮があり、総じて丁寧です。それでも管理者としては愛称でつい呼んでしまうこと等を気かけ、職員指導に努めています。	トイレに置かれた排泄用品に個人名が入っています。何らかの工夫を期待します
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いを表現しやすい雰囲気作りをして、自己決定が出来るように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の基本的なスケジュールはありますが、利用者個々の体調や気分、状況に応じて個別支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を聞きながら好みの服を着て頂いています。女性利用者の中には毛染めをしたり、メイクをしたりおしゃれを楽しんでおられる方もいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自分の役割として同じテーブルの方の片付けをされる方もいます。可能な方は調理準備や食器拭きなど関わっていただくこともあります。職員と利用者が一緒に食べながら、楽しく安全に食事出来るように配慮しています。	系列病院の栄養課に献立をたててもらい、食材は業者配達ですが、毎食職員の手作りで家庭的な食事が提供されています。おせち、七草粥の行事食もあり、また秋祭りにはBBQを堪能し、誕生会にはケーキでお祝いしています。	おやつづくりがありませんが、月に1回程度は参加型の餡巻きやたこ焼きなどの調理レクリエーションがあると、なお良いと思います。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	系列病院の管理栄養士が献立を作成しています。食事量や水分量はチェック表で管理し過不足が無い様に支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをして、清潔保持に留意しています。洗浄剤による夜間の義歯洗浄も行っています。		

自己評価および外部評価結果

1階ユニット

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め、日中はトイレで排泄出来るように支援しています。	排泄チェック表からリズムを見て誘導し、失敗があれば誘う時間を変更してその人のパターンを掴みつつ支援しています。入院でリハパンとなり、戻ってきてから布パンツへ移行を試みるも失敗が続き、「リハパンが楽でいい」と本人が安心感を選んだ結果、失敗が減った例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分摂取、適度な運動をしてもらい便秘予防に努めています。必要に応じ主治医・看護師に相談して薬の調節、食事形態の変更等個々に応じた対応をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には曜日は決まっていますが、本人の希望や外出の予定等により、臨機応変な対応は可能。利用者のタイミングに合わせて入浴順や時間は適宜変更しています。	拒否の人、同性介助の希望も現在ありません。週2日を目安に、浴剤は一番風呂の人を選んでもらっています。「毎日入りたい」要望にはできるだけ応えたいものの、職員配置に無理があれば本人に丁寧に断り、理解を得ています。	総じて入浴への楽しみの創出が足りないように受け止めました。入浴が清潔保持だけに留まらず、楽しい場となるような工夫があることを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の状況に応じて、居心地の良い場所で休息出来るようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をよく読み内服薬について理解する様に努めています。薬の変更があった際には申し送りノートで全職員が情報を共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き、床のモップ掛けや洗濯物たたみ等の本人の力を活かした役割をもつていただき、やりがいや喜びを感じていただける様にしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	良い天気時には散歩や外気浴を楽しんで頂いています。普段行けない様な場所にはご家族に協力をお願いしています。毎月の季節のイベント、個別の外出も可能な限り行っています。	回転寿司、カラオケと本人の要望が様々あり、居室担当者が希望を聞いて外出計画を立てています。一方で受診帰りに「買い物したい」となれば、予定になくてもドラッグストア等に立ち寄ります。主に午前を活動時間としていることから、散歩は昼食までに少人数で出かけています。	重度化により年間の外出計画が立案しにくいようです。数は伸びないとしても、少しでも個別の外出が増えることを期待します。

自己評価および外部評価結果

1階ユニット

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭管理は職員が行っていますが、本人の希望に応じて買い物に出掛け自力で支払いが出来るように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて、その都度対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔で広く開放的な共有空間で、思い思いに居心地よく過ごせるように配慮しています。室温・湿度の管理にも気を配っています。	オレンジ色のロールカーテンがたっぷり注ぐ陽射しと相まって、リビングを一層明るくしていて、冬季のエアコンの温度はその時の状況で24度ですが、陽が豊かなため日中は止めることもあるほどです。「掲示等で壁に穴をあけない」ルールも遵守され、和モダンなイメージを保っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファにて日向ぼっこをしたり、新聞や雑誌を見たり、歌を歌ったり自席で過ごしたり、思い思いに過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けの家具はあるが、本人や家族と相談しながら、必要ない物は撤去し、持ち込みも自由にして頂き、本人が過ごしやすい環境にしています。	ハンガーにかけられた背広、机の上に整然と置かれた髭剃り、ティッシュ、新聞紙の上に4足の靴と、見るからに几帳面さが伝わる居室や、遺影が置かれら部屋を視認しました。「〇〇さんお菓子入れ」と書かれたタッパーに日常の暮らしが垣間見えます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部分には手すりが設置されており、安全に歩行出来る様にしています。ネームプレートを本人の好きな色に変更したり、目線の高さに合わせたり、分かりやすい表示を心がけています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200825		
法人名	株式会社 富士見プロジェクト		
事業所名	グループホーム さくら2号館 (2階ユニット)		
所在地	静岡県清水区蒲原中302-1		
自己評価作成日	平成31年1月13日	評価結果市町村受理日	平成31年3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail%2018_022_kami%3Dtrue&JigyosyoCd=2294200825-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成31年1月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成22年8月2日に1階ユニットオープン。平成23年4月16日に2階ユニットオープンの施設です。JR蒲原駅から約徒歩5分、国道一号線富士由井バイパス蒲原西出口からもほど近い場所にあります。1年を通し日中は日当たり良好な駐車場や玄関にて日向ぼっこをしたり、イベントを開催しています。地区のお祭り際には当ホームの駐車場にて踊りを披露して下さったり、定期的に地区のボランティア様、不定期ですが散歩中の園児たちが来所して下さいと地域の方々に支えられています。また、シニアサポーターの様々なグループの皆様にも芸能披露やお手伝いをいただいています。医療面でも提携病院との連携体制や受診支援等により利用者様ご家族様に喜んでいただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から8年を経て、地域密着型に求められる要素の一つひとつをクリアしています。今日細かな部分への補足、小さな不備の改善にあたる段階を迎え、昨年度の外部評価の目標設定では『ボランティアの充実』に係る事柄に着目、連絡先一覧表や『ボランティア活動時のお願い』といった書面を作成するに至っています。シニアサポーターの登録事業所となって以来口コミで広がり、訪問ボランティアも増え、お茶出しなどのイベント補助、じょうだん会(楽器の演奏、歌)、なかよし会(歌、踊り、手品)、オカリナ、ギター、それぞれ1~2ヶ月に一度は来所くださっています。事業所でも活動の様子を玄関に掲示して功労を称え、感謝を伝えています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

2階ユニット

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員から募集し、タイムカードの上に展示し毎日職員が見る事により、共有を図っています。職員個々の意識の差はありますが、職員同士の声掛けにより意識が高まっています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し地域の祭り、清掃活動へ参加しています。日常的な挨拶、協力出来る事があれば積極的に協力しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域の行事に参加した際には、地域の方々に認知症に関する相談等随時受け付けている旨を発信しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では地域の方々やご家族の意見を聞いてサービス向上の参考にしています。評価への取り組み状況等についてスタッフ会議で取り上げ話し合っています。運営推進会議は2ヶ月に1回奇数月に行っています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類提出の際の電話や郵送でのやり取りが多いです。それ以外での日常的な連携は不足していますが、地域包括センターを招き運営推進会議を実施しています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言をしていますが、職員が2人介助等によりフロアの見守りが出来ない時、明らかに離脱等危険があると判断した時のみ、短時間施錠することがあります。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の状態観察、異常の発見時の報告・記録を徹底し事業所内での虐待が見過ごされないように、職員同士が声を掛け合い注意を払っています。		

自己評価および外部評価結果

2階ユニット

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	系列病院の看護師のアドバイスを受けています。また、職員個別に外部研修に参加するなど知識、技術の向上に心掛けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	口頭及び文章で説明は十分に行い理解・納得していただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に対してはケアプラン説明時や電話連絡時や面会時等に意見・要望を伺っています。利用者に関しては管理者からの直接の聞き取りや、職員が要望を聞いた際の報告を通じ意見・要望を伺い必要に応じ運営に反映させています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や個別面談、アンケートを通じて職員の提案や意見を聞いて、必要に応じて反映させています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、面談を行い人事考課制度を通じて、職員個々の実績や能力に応じた評価をして向上心を持てるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加を支持し、職員個々の実績や能力の向上を進めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への参加支援や関連施設でのイベント参加を通じ、同業者との交流を図っています。		

自己評価および外部評価結果

2階ユニット

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化に対する不安に配慮しながら、傾聴し少しでも早く安心して生活できるように全職員で意識して努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回相談時や見学時に良く話を聞いて、関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回相談時やアセスメント時に本人と家族の意向をよく聞き、当ホームの方針を説明し、他施設・他サービスも考慮して状況に応じた対応をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員によって意識の差はありますが、食事や家事を共に行い、共生を意識しながら関係構築をしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所として出来る事出来ないこと、家族でなければ出来ないこと等を入所前に説明し、家族と職員が共に本人を支えていけるようにしています。家族が気軽に面会に来れる雰囲気作りやイベントへの家族参加等で本人と家族の絆を大切にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人が来所しやすい様な雰囲気作りや散歩時、イベント時の地域の顔見知りとの交流を通じて、馴染みの関係を継続出来る様に努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り関わりを持ちながら、孤立する事なく円滑に人間関係が築けるように支援しています。		

自己評価および外部評価結果

2階ユニット

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された家族がなかなかGHIに来られませんが、地域の利用者が多いので街中で家族とお会いすることもあります。その際には退所された利用者の様子などを伺っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント時意向や思いの把握に努めていますが、困難なケースが多いです。家族の意向を考慮しながら本人本位になるように担当職員を中心に全職員で会議等で計画作成の為の話し合いをしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメント時に極力把握出来る様に努めています。他にもご家族や友人が面会に来られた時、生活歴を聞いています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常的な記録・申し送りの他に状態変化の見られる方については、随時報告・連絡・相談を心掛けています。申し送りノートやスタッフ会議での職員間での情報の共有に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングはご本人・御家族の声を頂き、どこで暮らしたいか又サービス内容で何が未達成なのか明確にしています。担当スタッフの介護計画への関りを持ち長期目標・短期目標の達成を意識させています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護サービス実施記録を作成し日々、適切にサービスが実施されているかスタッフが項目毎に押印し月末に何が未達成なのかを明確にし短期目標の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り本人や家族のニーズに対応し、柔軟な支援に取り組んでいます。		

自己評価および外部評価結果

2階ユニット

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握において不十分な事も多いので、今後地域資源の情報収集・活用していきたいと思います。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望に沿える様に支援しています。提携病院での受診を希望される場合は、付き添い介助をしています。その他の病院を希望される車椅子の方は、可能な限り送迎をしています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師による健康管理があります。他にも緊急時の対応指示を仰いだり、報告・連絡・相談を行ない看護師と連携しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も連絡をとり状態把握に努め、入退院時の連携がスムーズに行えるように、情報交換や相談等病院関係者との関係づくりを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合や終末期の対応について話し、事業所として出来る事・出来ない事を説明し同意を得ています。また、重度化となる前の段階で家族と話し合う機会をもち、医療機関を紹介するまでの支援をしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	H30、5月に消防署員による指導を依頼し、近所の園児達と共に消火器の使用や車椅子での避難の仕方の指導などを行いました。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の事業所での防災訓練の他に、地区での防災訓練に参加しています。夜間の訓練は現在行えていません。		

自己評価および外部評価結果

2階ユニット

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、プライバシーに配慮した声掛けや対応を指導していますが、言葉使いや態度が気になる職員もいます。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いを表現しやすい雰囲気作りをして、自己決定が出来るように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の基本的なスケジュールはありますが、利用者個々の体調や気分、状況に応じて個別支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を聞きながら好みの服を着て頂いています。女性利用者の中には毛染めをしたり、メイクをしたりおしゃれを楽しんでおられる方もいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自分の役割として同じテーブルの方の片付けをされる方もいます。可能な方は調理準備や食器拭きなど関わっていただくこともあります。職員と利用者が一緒に食べながら、楽しく安全に食事出来るように配慮しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	系列病院の管理栄養士が献立を作成しています。食事量や水分量はチェック表で管理し過不足が無い様に支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをして、清潔保持に留意しています。洗浄剤による夜間の義歯洗浄も行っています。		

自己評価および外部評価結果

2階ユニット

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め、日中はトイレで排泄出来るように支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分摂取、適度な運動をしてもらい便秘予防に努めています。必要に応じ主治医・看護師に相談して薬の調節、食事形態の変更等個々に応じた対応をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には曜日は決まっていますが、本人の希望や外出の予定等により、臨機応変な対応は可能。利用者のタイミングに合わせて入浴順や時間は適宜変更しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の状況に応じて、居心地の良い場所で休息出来るようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をよく読み内服薬について理解する様に努めています。薬の変更があった際には申し送りノートで全職員が情報を共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き、床のモップ掛けや洗濯物たたみ等の本人の力を活かした役割をもつていただき、やりがいや喜びを感じていただける様にしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	良い天気時には散歩や外気浴を楽しんで頂いています。普段行けない様な場所にはご家族に協力をお願いしています。毎月の季節のイベント、個別の外出も可能な限り行っています。		

自己評価および外部評価結果

2階ユニット

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭管理は職員が行っていますが、本人の希望に応じて買い物に出掛け自力で支払いが出来るように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて、その都度対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔で広く開放的な共有空間で、思い思いに居心地よく過ごせるように配慮しています。室温・湿度の管理にも気を配っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファにて日向ぼっこをしたり、新聞や雑誌を見たり、歌を歌ったり自席で過ごしたり、思い思いに過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けの家具はあるが、本人や家族と相談しながら、必要ない物は撤去し、持ち込みも自由にして頂き、本人が過ごしやすい環境にしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部分には手すりが設置されており、安全に歩行出来る様にしています。ネームプレートを本人の好きな色に変更したり、目線の高さに合わせたり、分かりやすい表示を心がけています。		